

大雪山旭岳温泉の外来種 ワサビ沼のオオカナダモ(トチカガミ科)ほか

雨竜町 佐々木 純一

今更ですが、北海道にオオカナダモ *Egeria densa* Planch. (トチカガミ科) が移入定着して繁茂しています。大雪山旭岳温泉の山懐深い原生林で静かにたたずむワサビ沼と呼ばれる湧水沼で、初めて確認したのは2012年8月4日でした。

ワサビ沼での出会いと移入生育の経緯

その日は旭岳青少年野営場から天人峡への登山道の途中の岩間でヒカリゴケを観察した後に、冬季はクロスカントリースキーコースとなるウッドチップが敷かれた湿原探勝路を、ワサビ沼湿原へと歩きました。途中で樹林が伐開された樹幹の3m上に案内板があり、これはクロカン用ですがお見逃しなく。湿原が現れ木道を進んだ先の枝道の奥に、樹林で隔てられたワサビ沼があります。ワサビ沼はコウキクサ(サトイモ科)の若草色と濃緑色の水草が水面を覆い尽して沼底が見えず、周囲の樹林と相まって色彩は美しいのですが、不思議な沼でした(図A)。

沼畔から水面をかき回すと、現れたのは細長い若草色の葉やモジャモジャした葉がたくさん付いた濃緑色の水草で、沼の中央部では押しくら饅頭状態に群生して一部は水面より盛り上がり、花茎を伸ばし多数の花が開花していました。白い3枚の花弁にはイワイチョウの花のように隆起したひだがあり、黄色の雄しべの特徴的な花です(図B、図C)。これまで見たことがない植

物で、浮かんだのは写真で見覚えがあるオオカナダモの名前でした。帰りに野営場の管理人さんに半信半疑でワサビ沼のオオカナダモの事を尋ねたところ、「ホテルのアクアリウムで増えすぎた水草をワサビ沼に捨てたらしい。増殖したので環境省旭岳ビジターセンターが2-3年は駆除作業をしたが諦めた様だ」と話された。2000年代にオオカナダモはワサビ沼に捨てられて、その後も生育を続けていました。

オオカナダモとは、ワサビ沼の水文環境はワサビ沼で野生化したオオカナダモとは、どのような植物なのでしょう。中田(2015)では、沈水性の多年草で茎は水中を伸長して分枝、葉は各節に4-5個が輪生する。雌雄異株で日本には大正時代に導入され、現在は雄株だけが生育している、とあります。アクアリウム関連で別名アナカリス、南米のブラジルやアルゼンチン原産の温暖地生で生育水温は10-30度で、マツモ(マツモ科)やフサモ(アリノトウグサ科)などと総称して金魚藻で販売され、底砂ですぐに根付きとても丈夫で初心者向きの水草です。オオカナダモ(アナカリス)は水槽で大きくなると根元側を切って更新します。

ワサビ沼は一見すると沼のように流れのない広い開水面ですが、源頭の3ヵ所の岩間から水温15-18℃の鉱泉が湧出して緩やかに流れる幅広い川で、樹林で隠れたその